

## 岡山県真庭市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

## (1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年	2022年	2023年	2030年（目標値）	達成度（%）
1	バイオマス発電所の増設【7.2、7.3、8.2、8.5、8.9】	2020年12月 1基	2021年度末 1基	基	基	2030年 2基	0%
2	広葉樹を伐採する事業者数【7.2、7.3、8.2、8.5、8.9】	2020年12月 2者	2021年度末 7者	者	者	2030年 5者	167%
3	真庭市に住みたい意思がある割合【4.3、4.4、11.7】	2014年9月 76.4%	2021年度末 -%	%	%	2030年 85%以上	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	生ごみ資源化施設の整備【6.6、12.2】	2019年度末 実証実験中 -	2021年度末 詳細設計完了 -	-	-	2030年 1施設完成 -	-
6	可燃ごみの総量（t/年）【6.6、12.2】	2019年度末 11,082 t/年	2021年度末 10,703 t/年	t/年	t/年	2030年 5,358 t/年	7%

## (2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況（2021年～2023年）

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度（%）
1	里山真庭の持続可能な森林経営	素材生産量（原木量）	2020年3月 11万m <sup>3</sup>	2020年3月 13万m <sup>3</sup>	万m <sup>3</sup>	万m <sup>3</sup>	2023年 12.3万m <sup>3</sup>	154%
2	里山真庭の持続可能な森林経営	林業関係新規雇用者数	2020年3月 3名	2020年3月 11名	名	名	2023年 15名	67%
3	木材の需要拡大と価値向上	真庭木材事業協同組合加入事業者出荷量	2020年3月 7万m <sup>3</sup>	2020年3月 6.9万m <sup>3</sup>	万m <sup>3</sup>	万m <sup>3</sup>	2023年 8万m <sup>3</sup>	-10%
4	木材の需要拡大と価値向上	真庭木材事業協同組合加入事業者新規雇用者数	2020年3月 11名	2020年3月 23名	名	名	2023年 45名	35%
5	分散型エネルギーの推進	真庭市エネルギー自給率	2020年3月 62.3%	2020年3月 62.3%	%	%	2023年 69.0%	0%
6	分散型エネルギーの推進	木質によるエネルギー自給率	2020年3月 28.5%	2020年3月 32.4%	%	%	2023年 35.0%	60%
7	くらしの中にある豊かさを感じる心と体を育む	芸術アウトリーチ事業の体験者数（人/年）	2020年12月 667人	2020年12月 731人	人	人	2023年 1,500人	8%
8	教育を地域で支える仕組みをつくる	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると回答した児童生徒の割合：小学生	2020年3月 54.3%	2020年7月 65.6%	%	%	2023年 65%	106%
9	教育を地域で支える仕組みをつくる	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると回答した児童生徒の割合：中学生	2020年3月 48.1%	2020年7月 49.5%	%	%	2023年 50%以上	74%
10	社会参加や活動の場の推進	週1回の「集いの場」	2020年12月 50カ所	2020年12月 73カ所	カ所	カ所	2023年 90カ所	58%
11	市民の意識を喚起し行動変革する	可燃ごみの減量（t/年）	2019年度 11,082 t/年	2019年度 10,703 t/年	t/年	t/年	2023年 10,400 t/年	56%
12	農業の基盤強化	農業生産法人または法人の参入数	2020年12月 42法人	2020年12月 42法人	法人	法人	2023年 45法人	0%
13	農作業の生産性向上に向けたスマート農業の推進	スマート農業取組法人数	2020年12月 2法人	2020年12月 4法人	法人	法人	2023年 6法人	50%
14	農作業の生産性向上に向けたスマート農業の推進	スマート農業取組農業者数	2020年12月 3名	2020年12月 5名	名	名	2023年 23名	10%

## 岡山県真庭市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

## (3) SDGs未来都市計画推進のKPI達成に係る評価及び課題等

## (1) 2030年のあるべき姿の実現へ向け取組の達成状況

・バイオマス発電所の増設及び生ごみ資源化施設の整備などハード事業の取組については、完成へ向けて着実に準備が進んでいる。バイオマス発電の増設については、関係者での検討を行うとともに、燃料安定供給の仕組みとして広葉樹のバイオマス燃料材搬出実証などにより、広葉樹搬出事業者の育成などへの成果が出ている。生ごみ資源化施設については2024年度稼働開始へ向けて2021年度は土木建築の詳細設計を行い、2022年度から本体工事に着手するなど、着実にハード整備へ向けた事業推進をしている。今後は出来高による達成状況の評価方法の見直しなど進める。

・真庭市に住みたい意思がある割合については、真庭市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけているKPIであり、5年後に評価を行う予定であり、現時点ではデータ収集が出来ていないが、総合戦略の評価において、長期的な指標として5年後の目標達成へ向けた各種事業の推進をしていくこととしている。

## (2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況（2021年～2023年）

・林業・木材産業関連においては、ウッドショックの影響によって原木価格が上昇したことで、素材生産量及び国産材出荷量は増加し、林業・木材産業の新規雇用も含め順調に目標達成へ向けて推移している。一方で、主に小規模の製材所が製造する役物等の無垢材においては、現在の一般住宅に対する需要がもと低調であったため、国産材需要の高まりにもかかわらず、全体での出荷量は横ばいとなった。

・エネルギー自給率については、令和3年8月より銘建工業株式会社のバイオマス発電所が本格稼働し、市内のエネルギー自給率向上に寄与した。今後エネルギー自給率100%達成に向け、木質バイオマスを利用した発電所の増設等を検討など、地域資源を活用したバイオマス施策を地域と共に取り組むかが課題であり、その検討を地域関係者で進めている。

・ソフト事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響により集合型の取り組みが出来ず、参加者や場づくりなどは達成状況が低くなったが、取組方法などを工夫するなど継続的に実施を行った。引き続きコロナ禍でも出来る工夫をしながら取り組み推進を行う。

・教育分野では、市内20小学校、6中学校において、総合的な学習の時間を中心に郷育（ふるさと学習）に取り組み、地域を知り、地域資源（ひと・もの・こと）から学ぶことを通して、地域に対して何ができるかを学ぶ機会が増えており、目標達成へ向け順調に推移している。継続的な取組を目指し、教育課程への位置づけが課題。

・農業分野においては、スマート農業の推進に係わる支援策（機器導入補助など）により、徐々にスマート農業農家が出てきているが、法人化の推進とともに活用計画サポートや、省力化、営農継続へ有効性アピールが必要となっており、継続的に支援を進める予定。